

読書を楽しむ！

岡田 芳治（化学生命工学科）



『かなり気がかりな日本語』  
野口恵子  
集英社新書  
2004



『バカ丁寧化する日本語』  
野口恵子  
光文社新書  
2009



『失礼な敬語』  
野口恵子  
光文社新書  
2013

岡田の担当、3回目です。今回は日本語表現についてです。

今回紹介する本は、野口恵子さんの「かなり気がかりな日本語」（集英社新書、2004年）、「バカ丁寧化する日本語 敬語コミュニケーションの行方」（光文社新書、2009年）と「失礼な敬語 誤用例から学ぶ、正しい使い方」（光文社新書、2013年）の3冊です。新書というと、とっつきにくい、表現が難解というイメージがありますが、この3冊は読みやすい新書の類だと思います。

まずは「かなり気がかりな日本語」からです。「はじめに」の中から『教わっていないことを、人はできるようにならない。箸の持ち方も算数の九九も、敬語の使い方も車の運転も、私たちはだれかに教えてもらってできるようになった。習って、見て、聞いて、まねて、覚えた。習うとは、見よう見まねで覚えることであり、見ならうことであり、慣れることなのだ。』その通りで、即戦力なんていません。でも戦力になれるように頑張ることはできます。周りをよく観察することから始めてください。先生、大学職員などいろいろな世代の人とたくさんおしゃべりすることを勧めます。

「第一章 大学生と言葉 嫌われる使役形」の中から『動詞の「あげる」を外国人学習者に教える際に提示する例文として、「私のお父さんは私に誕生日のプレゼントをあげました」と書いてきた日本人学生に、「これは日本語ではありません」とだけ書いて返却したこともある。』君たちはこの例文の何が変か考えてみてください。解説は本の中にあります。さらに、「第一章 大学生と言葉 敬語」の中から『敬語は大ざっぱに言って、聞き手または話題の人物を敬う尊敬語、へりくだることによって相手への敬意を表す謙譲語、「です・ます」の形をとる丁寧語の三種類に分けられる。……一般に敬語と聞いて思い浮かべるのは尊敬語と謙譲語……ところが、大多数の学生の書いてきた会話文は……接客場面での店員と客のやりとりであった。』視野を広げて敬語表現に触れてください。

続いて「バカ丁寧化する日本語 敬語コミュニケーションの行方」からです。

「第一章 させていただいたがる人々」の中では本書の「はじめに」で引用した『お訴えさせていただく』を考察しています。『「訴える」の丁寧語が「訴えます」、謙譲語は、(形の上では)「お訴えします」となる。……「お訴えさせていただく」は、すでに(形の上では)謙虚な言い方となっている「お訴えする」の「する」の部分を「させていただく」に再変換したものだ。謙譲語に、さらに相手の許しを得て何かをするという表現を重ねている。これは敬語の不要な上塗りになる。』このように敬語の不必要な列挙は相手を不愉快にさせることになるので気をつけたいものです。また、この章では「させていただく」の濫用によってどのような混乱が起こりうるかについても論じています。

最後に「失礼な敬語 誤用例から学ぶ、正しい使い方」からです。この本では前作からの「させていただく」の説明がより詳しく述べられています。

「第二章 取り扱い注意の「させていただく」の中から『「させていただく」が、動詞「する」の使役形「させる」と、「～てもらう」の謙譲語「～いただく」からなっていることに注目したい。……したがって、「させていただく」を用いる際には、させる誰か、すなわち、人が何かをすることに許可を出す誰かと、することを許してもらう誰か(たいへいは、私)がいなければならない。』使用例がこの後、書かれています。誤った使用をするとその人の品位が損なわれるので注意が必要な敬語です。例を1つ、「この春、〇〇大学を卒業させていただきました」(「卒業した」を謙虚に述べたつもりが、単位が足りなくて教授に泣きついたらお情けで単位をくれた、と解釈されても文句は言えない)

一通り読んで、これからのレポート作成や就活でのエントリーシート作成の参考にしてください。そして、卒業後のできる社会人に近づいてください。